

日本植生史学会ニュースレター

No.36 August 12, 2015

第30回日本植生史学会大会のご案内（第2報）・第10期会長および評議員選挙の結果報告・学会ニュース

第30回日本植生史学会大会のご案内（第2報）

第30回日本植生史学会大会を下記の要領で開催します。（学会 Web サイト（<http://hisbot.jp/>）においても随時、情報を更新いたしますので、ご確認願います。）

◆ 日時

2015年11月6日（金）午後：幹事会

11月7日（土）午前：幹事会、評議員会、午後：公開シンポジウム、懇親会

11月8日（日）一般研究発表（口頭/ポスター）・総会

11月9日（月）巡検（第40回日本植生史学会談話会）

◆ 会場：北海道博物館 講堂ほか

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2（<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/>）

〈アクセス〉（JR札幌駅からJR新札幌駅間は快速で10分弱、普通で15分程度です。）

バスをご利用の方：地下鉄新さっぽろ駅・JR新札幌駅からバスターミナル・のりば10（北レーン）JR北海道バス新22「開拓の村行き」に乗り、「北海道博物館」で下車。乗車時間は約15分。

JRご利用の方：JR森林公園駅の東口のりば、新札幌駅からの上記のバスが森林公園駅に寄ります。バス乗車時間は約5分。※JR森林公園駅から北海道博物館まで徒歩で20～25分。

大麻・江別方面から：JR北海道バス・夕鉄バス新札幌方面行きに乗り、「厚別東小学校前」で下車、バス停から徒歩15分。

駐車場：北海道博物館のまわりには百年記念塔前駐車場、北海道博物館駐車場、開拓の村駐車場の3つの駐車場があります。北海道博物館をご利用の際は、北海道博物館駐車場が最も近く便利です。お体の不自由な方、妊娠中の方などは身障者用駐車場をご利用ください（10台ほどの駐車スペースがあります）。

◆ 懇親会会場：ホテルエミシア札幌（JR新札幌駅改札から徒歩約3分、地下鉄新さっぽろ駅9番出入口より徒歩約1分）（<http://hotel-emisia.com/contents/information/access.html>）

◆ 費用（当日徴収）

参加費（要旨代を含む）：一般会員 3,000円、学生会員 1,000円、非会員 4,000円

懇親会費：一般会員・非会員 6,000円、学生会員 4,000円

11/8（日）お弁当予約希望者：1,000円（お茶付き）※大会申込時に学会 Web サイトの「申込みフォーム」からお申込み下さい。

◆ 宿泊：各自でお早目にご予約ください。大会会場や懇親会会場（新札幌駅）周辺には宿泊施設が少なく、JR札幌駅や地下鉄大通駅付近に多数あります。

◆ 主催：日本植生史学会 共催：北海道博物館

◆ 大会実行委員：田口尚（委員長）・臼杵勲（副委員長）・紀藤典夫（副委員長）・内田和典・大塚宜明・高瀬克範・高宮広土・椿坂恭代・三浦正人・守屋豊人・江口誠一・星野安治

◆ **大会プログラム**（詳細は後日郵送する大会案内（最終報）でご確認ください。）

○11月7日（土）：公開シンポジウム、懇親会

10：00～13：00 受付（正面玄関南口、1階グランドホール）

※大会参加者には北海道博物館の総合展示見学を団体割引料金で11/7（土）、もしくは11/8（日）いずれかに適用できるチケットをお渡しできます。詳細は、大会受付でご確認ください。また、11/7（土）10時より、学芸員の方に総合展示のみどころを20～25分程度でお話ししていただくグループレクチャーをお願いしています。希望者は、大会申込時に学会 Web サイトの「申込みフォーム」からお申込み下さい。（希望者少数の場合は実施いたしませんので、ご了承ください。）

13：00～17：15 公開シンポジウム（講堂：グランドホール階下、中地下1階）

公開シンポジウム

テーマ：『植生史が語る北海道の文化－縄文からアイヌへ』

オーガナイザー：山田悟郎（札幌国際大学）

趣旨：現在、北海道ではアイヌ民族の「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画が具体化しつつある。この動きの中で、北海道における縄文文化～続縄文文化～オホーツク文化～擦文文化～アイヌ文化の変遷は、北海道島内で独自に展開してきたもののみではないことを再認識する必要がある。ただし、南北の文化を一方向的に受け入れたのものでもない。必要なものを能動的に取捨選択しながら、自らの文化に取り入れ、発展してきたのである。人々の植物利用は食料資源獲得だけではなく、自然と共生しながら高度な技術を体得し、衣食住・生業・交易活動と共に、本州地域とやや異なる文化を育んできたのである。それは火山噴火、地殻変動、気候変動などの環境変化とも、大きく関わりながら、時には連綿と受け継ぎ、時には断絶と変容を繰り返しながらダイナミックに展開してきた経緯がある。このシンポジウムではアイヌの歴史・文化・精神世界に関する正しい理解と認識を深めるために、北海道の植生史研究の黎明期を振り返り、道内に特徴的な各種資料をもとに、これまでにない視点からアプローチして議論を深めたいと考えている。

また、アイヌ文化伝承者の減少に伴い、現在は残されていない技術や伝統文化の検証と掘り起こしも必要である。次世代に文化を継承するためには、植生史による実践的な調査・研究・復元が欠かせないことは言うまでもない。しかし、博物館や研究機関における専門家の世代交代などが加速する中で、調査・研究を後継する若手研究者の減少も、深刻な問題のひとつである。その結果、多くの関係機関では貴重な試料（資料）の保全・保存も危うい状況にあることが懸念されている。本シンポジウムではこのことについても議論したいと考えている。

基調講演 「植生史が語る北海道の文化」 山田悟郎（札幌国際大学）

特別講演「アイヌの植物利用について」 村木美幸（白老アイヌ民族博物館）

話題①フローテーション法の黎明期 椿坂恭代(Project seeds 考古植物研究会)

話題②北海道の漆製品について 小林幸雄(元北海道開拓記念館)

話題③北海道の木製品について 三浦正人(北海道埋蔵文化財センター)

話題④北海道の編組製品について 吉本忍(国立民族学博物館)

討論 オーガナイザー 山田悟郎

18：30～20：30 懇親会（ホテルエミシア札幌）

○11月8日（日）：一般研究発表（口頭/ポスター）、総会

9：00～11：00 口頭発表（講堂）

11：00～12：00 総会（講堂）

12:00～12:30 昼食

12:30～14:00 ポスター発表（中2階ラウンジ奥）

14:00～16:00 口頭発表（講堂）

◆ 大会参加、一般研究発表、及び巡検の申込み

※大会が11月上旬開催のため、締切りが例年より早くなっていますのでご注意ください。

一般研究発表については、A「生態、古生態、環境変動」、B「人と植物の関係史」、C「分類・系統、生物地理」のテーマ別に、口頭発表とポスター発表を募集します。大会参加は10月7日（水）17:00までに、一般研究発表を希望される場合は9月18日（金）17:00までに、下記の要領でお申込み下さい。講演要旨も下記の要領にて作成し、電子メールに添付して10月2日（金）17:00までにお送り下さい。

口頭発表：時間は質疑応答を含め15分。発表の際はパワーポイント（Windows・Mac 双方対応）をご使用下さい。申込み多数の場合、ポスター発表に変更をお願いすることもあります。

ポスター発表：ポスターボードは幅88cm、高さ160cmです。

◆ 申込期限

一般研究発表：9月18日（金）17:00

講演要旨：10月2日（金）17:00

大会・懇親会・巡検の参加：10月7日（水）17:00

※巡検参加に関しては、定員に達した場合、期限日より前に締め切ることがあります。

◆ 申込方法

学会 Web サイト (<http://hisbot.jp/>) にある申込フォームに、以下の事項を記入しお申込み下さい。

①氏名・所属、②連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）、③会員種別（一般会員／学生会員／非会員）、④懇親会の参加／不参加、⑤11/7（土）グループレクチャー希望の有無、⑥11/8（日）お弁当希望の有無、⑦一般研究発表の有無。

なお、一般研究発表をされる方は、次の項目もご記入下さい：⑧発表形式（口頭／ポスター）、⑨発表タイトル、⑩氏名・所属（連名の場合、発表者の左側に○印を付ける。）、⑪発表分野（A「生態、古生態、環境変動」／B「人と植物の関係史」／C「分類・系統、生物地理」）。申込み時の内容でプログラムを作成しますので、変更のないようお願いします。

また、巡検を希望する場合、⑫巡検の欄に参加を希望する旨、記載して下さい。

◆ 講演要旨の執筆要領

講演要旨を以下の要領にしたがい作成し、その PDF ファイルを第30回大会実行委員会の電子メールアドレス (taikai30@hisbot.jp) に送付して下さい（MS-Word ファイルは不可）。

1. 原稿は、A4判白紙を縦置き・横書きで使用します。枚数は2ページ以内です。
2. 最初に和文で表題と著者名（所属）を、次に英文で著者名と表題を書き、1行空けてから本文を入れて下さい。
3. 行数と1行の文字数は自由です（38行×45字程度を目安とする）。本文に図表を挿入することができません。
4. 上下3cmずつ、左右2.5cmずつの余白をお取り下さい。
5. 講演要旨原稿は Adobe Acrobat Reader 4.0 かそれ以降のバージョンで表示・印刷可能なファイル形式で提出して下さい。
6. ファイルサイズは3.0MB以内です。
7. ページ番号などをこちらで挿入するため、パスワードなどのセキュリティ設定をしないで下さい。「印刷」、「テキストとグラフィックの選択」、「文章の変更」、「注釈とフォームフィールドの追加と変更」などは“許可”にして下さい。

8. ご提出いただいた原稿をそのまま印刷します。印刷は白黒です。作成した PDF ファイルを各自で印刷し、図表に十分な解像度があるか、文字化けがないかを確認して下さい。

◆ **大会に関する連絡先**：参加申込や要旨作成などに関するお問い合わせは、大会実行委員 (taikai30@hisbot.jp) までお願いします。

◆ **巡検（第 40 回日本植生史学会談話会）のご案内**

テーマ：『北海道の植生と埋蔵文化財』

案内人：山田悟郎・三浦正人、世話人：田口尚・高瀬克範・守屋豊人

内容：時期的に多くの植物は枯落しているため、北海道に特徴的な針混交林植生および森林性生物の状況を野幌天然林のガイドンス施設で再確認する。北海道埋蔵文化センターでは調査報告した旧石器からアイヌ文化の出土遺物とともに、原産地ごとの黒曜石や道内各地のテフラ堆積と遺物包含層の剥ぎ取り標本を見学する。また、縄文時代の千歳市ママチ土製仮面（重文）、キウス 4 遺跡やキウス 5 遺跡の木製品、擦文～アイヌ文化期のユカンボシ C15 遺跡や美々 8 遺跡低湿地遺跡出土品（重文）など、道内に特徴的な木製品の製作技法や樹種選択などについて理解する。次に北海道開拓の村において、アイヌ文化期以後の北海道の発展に関わった建築物を見学する。午後からは恵庭市郷土資料館にて縄文時代のカリンバ遺跡出土の多種多量の漆器類（重文）、柏木川 4 遺跡出土の特殊な模様編みの編み物を見学し、赤色顔料と漆利用について学ぶ。次に縄文時代の巨大な集団墓地である国指定史跡千歳市キウス周堤墓群を見学し、縄文時代の土木技術について考える。縄文時代前期の千歳市美々貝塚を見学し、縄文海進時の石狩低地帯の縁辺の状況を学ぶ。新千歳空港で解散とするが、新千歳空港内には、集落、貝塚、周堤墓、墳墓、落とし穴などをはじめ、縄文～アイヌ文化期の多数の遺跡が存在した。連泊する方はバスで JR 札幌駅までお送りする。※施設の都合や天候・災害などで予定が変更される場合があります。

日程：2015 年 11 月 9 日（月）：バス移動

9:00 JR 新札幌駅前集合

9:30 野幌森林公園「ふれあい交流館」（森林植生と生物の特徴）

10:30 北海道立埋蔵文化財センター（展示室・千歳市ママチ土製仮面（重文）・美々 8 遺跡アイヌ期の木製品（重文））

11:30 北海道開拓の村（旧北海道庁・石造建築・漁村群などの歴史的建造物群ほか）

昼食

14:00 恵庭市郷土資料館（カリンバ遺跡出土遺物（重文）漆器・柏木川 4 縄文編布など）

15:20 千歳市キウス周堤墓群

16:20 美々貝塚・植苗貝塚

17:00 頃 新千歳空港で一部解散（バスは JR 札幌駅まで戻る）

参加費：4,000 円程度（昼食代別：事前予約にてお茶付きで 1,000 円のお弁当希望を受付けます。予約されない方は、各自でご用意願います。）

定員：40 名

申込期限：10 月 7 日（水）17:00（定員に達した場合、期限日より前に申込みを締切ることがあります。）

申込方法：大会申込時に学会 Web サイトの「申込みフォーム」からお申込み下さい。

第 10 期会長および評議員選挙の結果報告

2015 年 6 月 27 日に第 10 期会長および評議員選挙の開票および集計を立会人 2 名のもと厳正に行いました。選挙権者総数は 354 人で、投票者総数は 79 人、投票率は 22%でした。開票の結果、第 10 期会長に高原光氏、第 10 期評議員に鈴木三男氏、西田治文氏、能城修一氏、百原新氏（五十音順）が当選しましたのでご報告申し上げます。

会長選挙（投票総数：79 票）

1 位 高原光氏 19 票、次点 能城修一氏 14 票、次々点 西田治文氏 13 票

評議員選挙（投票総数：316 票）（上位 4 名が当選）

1 位 百原新氏 32 票、2 位 高原光氏 18 票*1、3 位 鈴木三男氏 16 票、4 位 西田治文氏 13 票、4 位 能城修一氏 13 票、次点 佐々木由香氏 12 票

*1 会長、評議員選挙規程により会長への選出が優先されるため除外

選挙管理委員長 清永丈太

学会ニュース

● 会費納入のお願い

2015 年度の会費納入にご協力下さい。

日本植生史学会会費（2010 年度より）一般会員：6,000 円・学生会員：3,000 円・団体会員：8,000 円・賛助会員：一口 20,000 円とし一口以上とする。会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等があった方は、以下の日本植生史学会事務局へのご連絡下さい。

事務局：

- 連絡・問合せ 庶務幹事 吉田圭一郎 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷常盤台79-2横浜国立大学教育人間科学部
TEL：045-339-3425 庶務：hbmain@hisbot.jp 会誌投稿：hbjournal@hisbot.jp
- NL編集、ホームページ・企業広告問合せ 広報・渉外幹事 西本 寛 広報・渉外：hbnews@hisbot.jp
- 入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局
Tel：03-5307-1175 Fax：03-5307-1196 Mail：hisbot@univcoop.or.jp
- 学会ホームページ <http://hisbot.jp/>